

TSH-EIA 法によるマス・スクリーニングの検討

砂子療育園	大浦 敏明
大阪市立小児保健センター第一内科	鶴原 常雄
	高 泳俊
	服部 英司
大阪市環境保健協会	水野 洋子
	菅森 徳藏
大阪大学医学部中央臨床検査部	宮井 潔

目 的：

宮井らの開発した TSH-EIA のサンドイッチ法の精度をさらに向上させる。

研究方法：

対象として、前回とは別の新たな 4,484 の新生児から得た血液ろ紙ディスクを用いた。

アッセイ法の改良点としては、(1) 抽出時間を40分に延長した。(2) 攪拌を十分に行った。他は従来の方法に従った。

研究結果：

1)再採血率は前回と比較して、1, 2, 2.5, 3, 4および5パーセントの各々の値で低下した。特に、1回目5パーセントのものは、再検で5パーセント以下を示したものはなかった(表)。

2) Duplicate による SD, CV の前回との比較検討では、その精度が向上した。

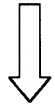
結 論：

今回、(1) 抽出時間の延長、(2) 十分な攪拌という点を改良し、TSH-EIA サンドイッチ法の精度の向上が認められた。この方法は新生児クレチン症のマス・スクリーニングとして有用な方法と考えられる。

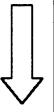
RECALLING RATE

	<前回>	<今回>	
NEWBORN SAMPLE	4,815	4,484	
AFTER TWICE ASSAY	133	69	
1 PERCENTILE	4 1:1204 (0.08%)	3 1:1495 (0.06%)	
2 "	6 482 (0.21%)	3 747 (0.13%)	
2.5 "	5 321 (0.31%)	1 641 (0.16%)	
3 "	4 253 (0.40%)	3 448 (0.22%)	
4 "	9 172 (0.58%)	2 347 (0.27%)	
5 "	7 138 (0.73%)	0	





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的:

宮井らの開発した TSH-EIA のサンドイッチ法の精度をさらに向上させる。